

土木学会 コンクリート委員会 規準関連小委員会  
平成 21 年度 第 4 回委員会議事録（案）

日時：平成 21 年度 12 月 16 日（水）14：00～17：30

場所：土木学会 A 会議室

出席者：鎌田委員長、上野幹事長、浦野、江口、小川、加藤、国枝、坂本、田中、辻本、椿、中村、  
名取、野島、野村、橋本、原田、久田、日比野、八木、山口、横関（敬称略）

配布資料：

- 4-0 平成 21 年度第 4 回規準関連小委員会議事次第
- 4-1 平成 21 年度第 3 回規準関連小委員会議事録（案）
- 4-2 常任委員会メモ
- 4-3 規準関連小委員会（平成 21 年度）委員構成（案）
- 4-4-1 セメント，骨材，混和材料 WG 目次案（A，B，C，D）
- 4-5-1 鋼材，補強材 WG 目次案（E）
- 4-5-2 エポキシ樹脂塗装鉄筋用鋼棒の品質規格に関する現状調査資料
- 4-6-1 フレッシュコンクリート WG 目次案（F）
- 4-6-2 フレッシュコンクリート WG の活動報告
- 4-6-3 単位水量の測定方法について
- 4-7-1 硬化コンクリート WG 目次案（G）
- 4-7-2 JSCE 規準本文案 G 硬化コンクリート（1～10）
- 4-7-3 拡散係数 SWG 議事録
- 4-8-1 製品，施工機械等 WG 目次案（H，I）
- 4-8-2 JSCE 規準本文案 H コンクリート製品（1），I.施工機械および資材（1，2）
- 4-9-1 補修，注入材等 WG 目次案（J，K，Z）
- 4-9-2 補修，注入材等 WG 第 45 回議事録（案）
- 4-10-1 ECF スtrandおよびプレグラウト PC 鋼材に関する指針案と土木学会規準案の相関
- 4-10-2 エポキシ樹脂を用いた PC 鋼材を緊張材とする PC 構造物の設計施工指針（案）草稿
- 4-11 プレストレストコンクリート用シースの試験方法検討 WG 第 10 回議事録（案）

議事：

1. 委員長挨拶と前回議事録の確認（配布資料 4-1）

鎌田委員長による開会の挨拶に引き続き、日比野委員による前回議事録の確認が行われ、以下の点を修正の上、了承された。

- ・ 3 頁，4.8 以降の節番号を 5.X に修正
- ・ 4 頁，5.10(5)製品，施工機械等 WG

「M?を用いたコンクリート製品の J I S が制定される。」の部分を

→「Mを用いたコンクリート製品の J I S が制定されたため、示方書に取り込みたい。」に修正

なお、5.10（1）の付属書のタイトルの一括調査の件について、日本規格協会側から対応不可との回答

があったため各 WG で調査することとなった。

## 2. 常任委員会報告（上野幹事長：配布資料）

コンクリート委員会常任委員会における当小委員会関連審議の報告があった。主な内容は以下の通り。

- ・ PC 用シース関連の試験方法規準案については基本的に了承された。
- ・ 頂いた指摘事項には PC 建協からの意見も含まれている（別途の意見照会不要）。
- ・ 10 規準案は、土木学会論文集へ解説付きで投稿予定（担当は樁主査にお願いし、投稿時期は来年度 4～5 月頃が望ましい）。

また、以下は橋本委員および上野幹事長からの主なコメント

- ・ 規準編への関連規準の掲載料について現在調査中である。
- ・ 当小委員会の HP 更新と併せて、英文版規準の作成も進めたい（公開の可否は別途審議が必要）

## 3. 委員交代について

鎌田委員長から、「補修、注入材等 WG」の中村委員が堀越委員へ交代する旨の提案がなされ、了承された。ただし、「プレストレストコンクリート用シースの試験方法 WG」については、活動終了まで中村委員が引き続き担当する。

## 4. 2010 年版目次案（各 WG）

各 WG から 2010 年度版目次案について説明がなされた。なお、全体の審議を通じて統一された「目次案作成時の主な注意点」は下記の通り。

\*\*\*\*\*

- ◆ 変更点および新規追加項目は「下線」で示す。
- ◆ 原出典や説明が必要な経緯等については、可能な限り「適用範囲」における【備考】等での記述で対応する（資料 4-8-2 の記載方法を参照）。ただし、記述の必要性については各 WG で引き続き審議する。
- ◆ 新規制定規準および何らかの修正のある規準については制定年を「2010」とし「(案)」を付ける。
- ◆ 今回の改訂で「(案)」を取る場合、制定年は以前のまま。
- ◆ 規準統合のために番号が繰り上がる場合でも、審議資料としては番号を対応させておく（最終段階で校正する）。
- ◆ 記載あるいは引用する各種規準および付属書の更新状況を確認し、最新版となるよう注意する。
- ◆ JIS 規格番号は日本規格協会で確認するが、各規準内で引用される規格（特に JIS）の番号については各 WG で確認する必要があるので注意する。

\*\*\*\*\*

### (1) セメント、骨材、混和材料 WG

小川委員から目次案（配布資料 4-4-1）が示され、JIS R 5210～5214 が大きく変更し、付属書と併せて修正が必要である等の説明がなされた。なお、審議の結果、土木学会基準 D, 3.および 5.については<省略>でなく「掲載」とすることとし、表記方法のフォーマット等と併せて修正することとなった。

### (2) 鋼材、補強材 WG

樁主査から担当箇所の目次案（配布資料 4-5-1）について説明がなされた。主な内容は下記の通り。

- ①土木学会規準の置換可能な部分は「エポキシ樹脂」から「樹脂被覆」へ変更し、その部分のライブラリー情報は削除する予定
- ②土木学会規準 46～55 に PC シース関連の追加がある（番号は E-701～710 とすることとなった）
- ③JIS 規格において規準統合がある（旧 48 と旧 58）

等の内容が説明された。なお、記載方法については上記書式に従って修正することとなった。

また、八木委員より、現状の製造方法ではエポキシ樹脂塗装鉄筋用鋼棒のふし形状はほとんど管理されていないことが説明された（配布資料 4-5-2）。現在流通している鋼棒のふし形状と、規準における規格範囲との整合性について再度調査することとなった。

### (3) フレッシュコンクリート WG

橋本主査より、担当箇所の目次案（配布資料 4-6-1）について説明がなされた。主な内容は下記の通り。

- ①「加振 BAR に関する規準」は、時期尚早につき取り下げる
- ②「適用範囲」に規準制定や修正点の経緯等を記載するよう見直した
- ③ PC グラウトの流動性試験用の漏斗の寸法誤差について、配布資料 4-6-2 表-1 の許容限界値の妥当性を実情調査により確認する
- ④単位水量試験に関する土木学会規準として、実情を踏まえて「高周波加熱乾燥法」および「エアメーター法」の 2 件を提案する（配布資料 4-6-3）

等の内容が説明された。

### (4) 硬化コンクリート WG

久田主査より、担当箇所の目次案（配布資料 4-7-1）について説明がなされた。主な内容は下記の通り。なお、記載方法は上記書式に従って修正することとなった。

- ①土木学会規準 10～15 が改訂のため内容を見直し中である（配布資料 4-7-2）
- ②関連規準 7～12 に追加がある
- ③拡散係数に関連する規準の見直しについては SWG で審議中（配布資料 4-7-3）

また、審議の結果、以下の点について WG にて修正あるいは検討することとなった。

- ①新しい規準を漏れなく加える（土木学会の吹付けコンクリート関連、新 JCI 規準など）
- ②土木学会規準 13 の拡散係数の名称は変更せず、必要な解説は「適用範囲」の【備考】で対応する
- ③現実的に入手困難な規準は削除すべきではないか（関連規準 1 JCI-SF-1984 など）
- ④鋼繊維補強コンクリートに関する土木学会規準は、有機系繊維等も含めた短繊維補強コンクリートに関するものに拡張できないか

- ⑤関連規準の引用先が複数挙げてあるものは、一つに修正する（関連規準 11 および 12）

### (5) 製品、施工機械等 WG

原田主査より、担当箇所の目次案（配布資料 4-8-1）について説明がなされた。主な内容は下記の通り。

- ①JIS 規格 3～10 については現在改訂中であり、規準編発刊時の最新情報を盛り込む予定
- ②JIS 規格 12 が新規追加、③土木学会規準 H.1 が改訂、④関連規準 I.1 が改訂

### (6) 補修、注入材等 WG

江口委員より、担当箇所の目次案（配布資料 4-9-1）について説明がなされた。主な内容は下記の通り。

- ①JIS 規格 K.1～7 は<省略>し、8 のみ掲載する、②JIS 規格 Z.7 を追加する

③土木学会規準 K.16 (K 571-2005) に内容の欠落部分があるため対応を審議すべき（審議結果は後述）

④土木学会規準 K17～20 新規提案を検討中（原案を次回 3 月の小委員会に諮る予定）

⑤関連規準 Z.労働安全衛生規則については直前の情報を確認予定

⑥WG での審議状況については配布資料 4-9-2 を参照

なお、上記③の土木学会規準の欠落部分に関しては、至急 2007 年制定版への正誤表（江口委員から土木学会村木さんへ連絡）を出した上で“-2005”として対応することとなった。

## 5. エポキシ PC 鋼棒の規準案

名取委員より、エポキシ PC 鋼棒の規準案作成の進捗状況および土木学会規準との関連について配布資料 4-10-1、および 4-10-2 を用いて説明がなされた。なお、引用規格として挙げられている ASTM の妥当性について質問があったが、容易に入手可能であるため特に問題ない旨の回答があった。しかし、引用規格としている ASTM 規格は、本文中では引用されていないため、削除の可能性も含めて検討することとなった。

## 6. 今後のスケジュール

鎌田委員長より今後のスケジュール案が示され、各 WG で至急目次案を修正することとなった。

- ・ 12 月 23 日までに各 WG から担当箇所の目次案を提出
- ・ 目次案について指摘箇所があれば 1 月 4 日までに WG 主査に連絡
- ・ 各 WG 主査が修正のうえ、1 月 12 日までに最終目次案を作成
- ・ 最終目次案を委員長と幹事長とで確認後、1 月 28 日開催の常任委員会に諮るため 1 月 18 日までに常任委員会幹事団へ提出

次回委員会開催予定を以下の通りとした。

日時：平成 22 年 3 月 11 日(木) 14:00～17:00

場所：スクワール麴町 5F 寿

以上  
文責：山口